



東洋史

※【 】内は立正大学図書館における請求記号と所在を示す。

1. 東洋史とは

日本における歴史研究および歴史教育上の一分野。日本史・西洋史と並立して学会や大学の課程で、専門分野を形成している。

明治時代以前においては、漢学の一部と見なされていた。1894(明治27)年、『支那通史』の著者として知られる那珂通世なかみちよの提議により、中等学校の外国史を西洋史と東洋史に分けて教授することとし、欧米の史学方法を取りこんで、近代歴史学としての東洋史が成立した。

第二次世界大戦後の東洋史学は地域研究的視点が重要視され、中国中心の東洋史から脱却して、朝鮮・インドシナ・インド・中央アジア・西アジアなど各民族・文化圏の現地語に基づく専門研究が進展し、大きな成果を挙げている。
 (『世界大百科事典』20巻、改訂版より引用)

2. 分類 (NDC9版)

図書館の書架を調べる際は、次の分類を中心に探すとよい。

分類番号	分野	分類番号	分野
220	アジア史・東洋史	225	インド
221	朝鮮	[226]	西南アジア・中東[近東]
222	中国	227	西南アジア・中東[近東]
223	東南アジア	[228]	アラブ諸国
224	インドネシア	229	アジア・ロシア

3. 辞典・事典

『現代アジア事典』 【292/U 36 品川 2F 参考図書/電子資料 (OPACより閲覧可)】

上原秀 [ほか], 文眞堂, 2009

アジア全域にわたる項目を含み、説明は簡潔・平易で読みやすい。約2,000項目を50音順で配置。巻末の付録にはアジア諸国の主要統計が時系列順で構成されている。

『アジア歴史事典』全12冊新装復刊版 【220.3/A 27/1~10, 別(1), (2) 品川 2F 参考図書】

平凡社, 1984

アジア全域とアフリカを含むアジア史の総合事典。解説が詳しく書かれており、図版や地図も収録している。配列は50音順で各項目末に参考文献が記されている。第9巻に補遺とアジア紀年表など7種の付表がある。第10巻は総索引。別冊として『アジア歴史地図』と『東洋史料集成』がある。1959年から1961年刊の新装復刊。

『中国文化史大事典』 【222/O-96 品川 2F 参考図書】

尾崎雄二郎 [ほか], 大修館書店, 2013

中国に関する文学・歴史・哲学はもちろん近年研究が進んでいる美術・考古・芸能・服飾・民族・科学技術などの項目を50人におよぶ専門家が選定し解説している。総索引・総画索引・ピンイン索引も収録されている。



4.入門書

『宗教から見る中国古代史』 【222.03/W 46 品川 2F 学修支援 (仏教)】

渡辺義浩著, ナツメ社, 2007

大きな図による説明は東洋史初心者にぴったり。古代史だけでなくその後の中国を読み解くヒントもたくさん隠れているため、今後の中国を理解するためにも必読の1冊である。

『アジア史入門：日本人の常識』 【220/Sa25 品川 B1 図書】

斎藤道彦著, 白帝社, 2010

古代から現代までの4部構成になっており、日本と関係の深い近現代東アジアに重点を置き「アジア史」の全体像が取り上げられている。文章も丁寧かつわかりやすく、初学者に寄り添って書かれている。まさに「入門」にうってつけの1冊である。

『Narasia(ならじあ)：日本と東アジアの潮流：これナラ本』 【220/Ma86 品川 B1 図書】

松岡正剛著, 丸善, 2009

日本を含めたアジアとその他諸外国との問題について、「奈良アジア」という原点から考えた1冊。全ページフルカラーに加え写真が多く掲載されており、視覚的にも楽しむことができるものとなっているため、東洋史初学者向けとなっている。

『アジアの歴史と文化』 【220/A 27/1~5,7~10 品川 B1 図書】

笠沙雅章 [ほか], 同朋社, 1994~2000

中国古代から近現代までのシリーズ。図を多く用いて当時の文化や生活を解説している。また、付録に年表もあるため通史を学ぶのにも最適なシリーズである。

5.雑誌

『東洋史研究』 【220.05/1 品川 B3 雑誌 (新刊は 3F 開架雑誌コーナー)】

東洋史研究会

東洋史研究会の機関誌。年4回刊行。東洋史および西南アジア史に関する学術論文、書評が掲載されている。

『東洋學報』 【205/6 品川 B3 雑誌 (新刊は 3F 開架雑誌コーナー)】

東洋文庫

東洋学専門の学術誌。伝統的な地域・時代と、アジア広域に関する研究内容がまとめられている。年4回刊行。論説、批評と紹介、彙報等が収載されている。

6.インターネット (学会サイト等)

『東アジア人文情報学研究センター』 <http://www.kita.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>

2009年4月に「漢字情報研究センター」を改組して設立された東アジア人文情報学研究センターの公式ホームページ。研究センターの概要や東アジアの資料に関するデータベースが公開されている。セミナーや講習会なども定期的に行っている。

『ジェトロ・アジア研究所』 <http://www.ide.go.jp/Japanese/>

日本における開発途上国研究の1つの拠点であり、アジア、中東、アフリカ、ラテンアメリカ、オセアニア、東欧諸国といったすべての開発途上国の経済・政治・社会に関する様々な刊行物を公開している。8つの定期刊行物の刊行に加え、単行書の発行も行っている。